

流の「2024年問題」に起因する倉庫の再編需要が見られる北九州エリアでの事業化も検討しているという。

一方で、九州ではJR九州同様に異業種からの物流不動産事業の参入も多く、供給数が増え、建設費の高騰を背景とした賃料の高止まりもある。ただ、長年鉄道業を営む同社の知名度や信頼感が土地情報の取得や売り主との交渉時に強みになっているほか、不動産事業は民営化直後から行っていることもあり、人脈も武器になるといえる。三又氏は、テナントニーズをくみ取った立地の厳選と使い勝手の良い商品企画を行うとし、「物流不動産事業を今後の収益の柱として成長させていきたい」と話している。

竣工させた。敷地面積9万8千平方メートル、6階建てで延

サルリアルタイム配送システム

機など自動判別 スマホのセンサー活用

待機時間や荷役・付帯作業時間を自動で検知し、業務記録付票の作成を自動化することで記録忘れを防止する。
ドライバーの記録作業負担が軽減されるほか、作業

ダイセー倉庫運輸

ドラコン

選抜18選手が出場

ダイセー倉庫運輸（田中社長、愛知県小牧市）は11月22日、愛知県みよし市の中部トラック総合研修センターでドライバーコンテストを開催した。

全員参加で法令知識や点検技術、運転技能、安全意識の向上を図るため、関東



参加者全員で記念撮影

ジャパンドローン関西

万博への貢献など解説



ドローン、エアモビリティの専門展示会「ジャパンドローン次世代エアモビリティEXPO2025」

が11月26、27日、大阪市で開催された。大阪・関西万博で注目度が高まり、技術革新が進んだドローンと空飛ぶクルマの最新情報を得ようとする来場者が多数訪れた。

ブルーイノベーションは、埼玉県八潮市の道路陥没事故現場で下水管内調査に使われた屋内点検用ドローン

「ERIOS3」のデと空飛ぶクルマの運航調整支援「大阪・関西万博後」のドローン、空飛ぶクルマの社会実装を目指して」といった、万博への貢献やその後の展開に関する解説が目立った。

ベ床面積24万6千平方メートル。テナント契約状況は満床に近い。27年3月の竣工に向けて建設を進める「ランドポート東海大府Ⅱ」（大府市）も契約が進んでいる。松尾社長は「首都圏以外のエリアでも展開を広げていく」と話した。毎年1千億円超の投資を行い、事業を拡大していく。

旅行中や外出先で手荷物を一時的に預けた人と、空きスペースを有効活用したい店舗・施設をつなぐ手荷物預かりプラットフォーム「Bounce」を運営するBounce（コディ・キャンディCEO）最高経営責任者（日本法人Bounce Japan）は11月25日、ヤマト運輸（阿波一社長、東京都中央区）と連携して、空港から全国3千カ所の同社営業所に手荷物を配送するサービスを羽田、中部国際、福岡、那覇の各空港で提供を始めた、と発表した。

Bounceは「全国に物流ネットワークを持つヤマト運輸との連携により、空港から都市部へ、都市から地方へと広がる『旅行中の手荷物移動』の課題を包括的に解決し、地方への移動を促進することで旅行者だけではなく、地域社会にもメリットをもたらす仕組みを構築する」としている。

Bounce 空港から手荷物配送 ヤマト運輸と連携

旅行中や外出先で手荷物を一時的に預けた人と、空きスペースを有効活用したい店舗・施設をつなぐ手荷物預かりプラットフォーム「Bounce」を運営するBounce（コディ・キャンディCEO）最高経営責任者（日本法人Bounce Japan）は11月25日、ヤマト運輸（阿波一社長、東京都中央区）と連携して、空港から全国3千カ所の同社営業所に手荷物を配送するサービスを羽田、中部国際、福岡、那覇の各空港で提供を始めた、と発表した。

中古車販売サイト開設
軽車両が中心
TNS系
タカネットサービス（TNS、西口高生社長、横浜市西区）は11月21日、グループ会社の栃木トチパ（清水曉社長、栃木県佐野市）が軽車両を中心とした中古車販売サイト「トチパのソクのり」を開設した、と発表した。

40万円、50万円の各価格帯で購入できるプランを用意。各価格には、車両本体価格と車検費用、登録費用、リサイクル券、法定点検費用など車両取得に必要な費用全てを含めている。購入後は遠隔地でもTNSグループで陸送するほか、乗り換えや下取りも含め、グループ内で対応していく。

頃の腕試しとして頑張っている」と激励。
競技は、選手宣誓に続き、事前実施の学科と日常点検に準じた点検競技、バックカメラを見ながらホーム付け15秒チャレンジを目指す走行競技で採点。競技後は、全参加者を集め、日常

点検競技について教育室の担当者が解説した。
表彰は、個人部門の上位3人と、所属選手の平均点で競うチーム部門の上位3チームに賞状と記念品を授与。個人部門は野村恭俊選手、チーム部門は関東チームが制した。このほか、点

検競技の最高得点者には愛知日野自動車賞、走行競技の最高得点者には、尾張陸運プロドライバー賞が贈られた。
田中社長は「日頃、忙し

思う。当社のキャスト便は、一人ひとりが安全品質とコンプライアンス（法令順守）を積み重ねて成長してきた。今後も三方良しの精神を忘れず、明るく、楽しく、たくましくを信条に業務に励んでほしい」と語った。

33選手がエントリー

SBSHD 3種目に挑戦

SBSホールディングスは11月21日、ドライバーコンテストをSBS自動車学校（大戸正昭社長、千葉市稲毛区）が運営する自動車教習所で15日に開催した、と発表した。グループ各社のドライバーから選抜された選手33人が知識と技術を競い合った。

エントリーし、学科、実技、点検の3種目に挑戦。1・5トン部門は善志伯恵選手（SBSフレックネット旭川輸送営業所）、4トン部門は我妻一茂選手（同東北低温DC）がそれぞれ優勝を手にした。善志選手が「感無量。これからは安全運転で業務に当たりたい」と語り、我妻選手は「安全運転を心掛けている

結果がこのよう形で出て良かった」と喜びを表した。SBSHDの鎌田正彦社長は「事故をなくすには運転技能の向上だけでなく、心身の健康管理が欠かせない。重大事故は地域社会に深刻な影響を及ぼすため、安全運転と健康の両面を重視した運送事業経営にまい進していく。ドライバー不足への対応として外国人ドライバー育成にも取り組み、全社一丸となって物流事業を支えていく」とコメントした。



日常業務で培った技術を披露

（面担 岩淵彩香）